【　H28　９月21日(水)　伊江村立伊江中学校　２学年　英語　授業者Ｍ・Ｔ先生　】

リフレクションシート№.171

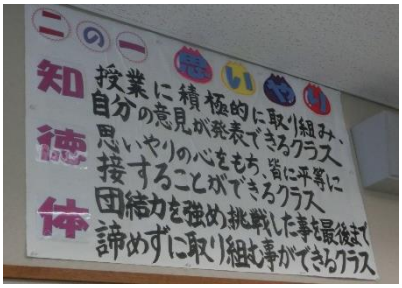
（１）単元名： PRoGRAM5 Gulliver’Traveis

（２）本時の目標：伊江島または沖縄の観光名所や名物を紹介する文を書く

本日は伊江中学校を訪問させていただいた。伊江中学校は、近隣の伊江小学校と西小学校の２校の小学校から生徒たちが集約され伊江村でも一つの中学校となっている。こちらも校舎が近年建て替えられ、空調設備が整えられ、学校全体が落ち着いた雰囲気の中にある。

右の写真、廊下の掲示物と玄関の靴箱である。静然とした学びは整然とした環境でしか成立しない。教室は朝の会であるが、全然騒がしくなく落ち着いた雰囲気を感じる。授業へ向かう生徒たちとすれ違う、生徒たちの穏やかな挨拶と柔らかな表情に私の頬も緩む。３枚目の写真、「2 学年全員出席 99 日」。９月のこの時期に２学年生徒の全員出席の日が 99 日…信じられない驚きの数字である。校長先生も私を案内しながら笑みを浮かべる。何よりも学校生活が充実している証拠である。学校に通うこと、学校に居ることに満足や存在感を感じているんだろう。素晴らしい学校経営が淡々と進められている。

［2 年１組］　学校敷地に入り、校長室へ案内され教室に入るまでに、これほど期待感を抱くのは私も久しぶりである。



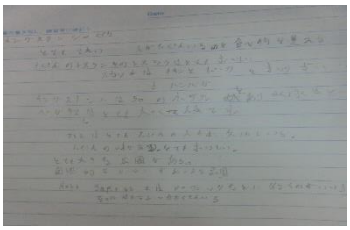
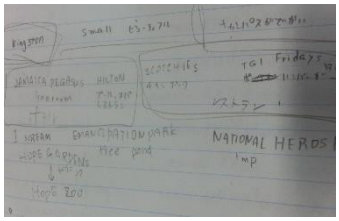
朝のホームルームを終え、さぁこれから１校時の授業です。まず驚かされたのが生徒たちの表情である。１校時から校長と数名の先生方が授業を見に来ると言いうのに、何の身構えもなく、実に自然に柔らかい表情をしている。担任の先生も慎ましく「よろしくお願いします。」と一声かけて自分の授業へ向かった。一人残らずすべての生徒が安心して過ごせる教室とはこんな「穏やかな教室」ではないだろうか。担任の先生の学級経営の理念やビジョンをぜひ聞いてみたいと思った。「二の一　思いやり」担任の思いや、教室の仲間たちの思いが一人ひとりの心に届いている。

［タイムマネジメント］　本時の授業の山場、中心活動、クライマックス、教科によってもいろいろな言われ方がある。本時の授業最終的に一番の中心活動が時間なくて生徒たちは夢中になっていたが不完全燃焼のままタイムアウトとなってしまったではこの授業デザインのどこにタイムマネジメントの可能性を見出していくかが大切になってくる。左写真、今日の学習の目的や関係事項でもないが３分を費やしている。右写真、ウォームアップとしてＡＬＴが生徒の自己紹介文が誰かを当てるクイズ的な時間、授業者がＡＬＴと生徒たちのコミュニケーションに気遣い設定したのであればちょっと長すぎた感じがした。さらにその自己紹介の文と、本時の自分の街を紹介する内容とのつながりはどうであっただろうか？ つまり、本時の中心活動の解決に向けた「足場づくり」の時間になっていただろうか。下の写真、その後ＡＬＴが自分の住んでいた街をプレゼンで紹介した。生徒たちは必死になって、ノートにメモを取りながら「見る・聞く」の時間となる。

正直言って英語教育におけるＡＬＴの活用の効果は絶大と思う。しかし、あくまで授業は教師の責任でデザインされるので授業者とＡＬＴとの本時の授業の「ねらい」やタイム調整が重要となる。さらに授業においては、授業者とＡＬＴの呼吸が大事になってくる。

日常的に授業者から積極的にＡＬＴにコミュニケーションを図り、互いの立場の理解や意思の疎通を心がけ、最終的に両者のチームワークが授業の質を上げ、生徒達にその恩恵が向けられることを願います。

［ＡＬＴのプレゼンからグループへ］　：グループへの指示で生徒の表情が一気に緩む（左写真）。

先ほどまで、見る・聞くに集中しメモを取りながらの緊張の時間から、グループへの協同と対話に向けられたとき、生徒たちの顔が一気に柔らかくなる。グループで自分たちで聴きとったことを確認しまとめる。一生懸命記録できた子もいたが、まったく傍観者の生徒もいた、しかし、グループでは写真や絵をみて勘を働かせ対話に参加する。「分からない生徒」「弱い生徒達」も卑屈にならず仲間と向かい合って解決に参加している。

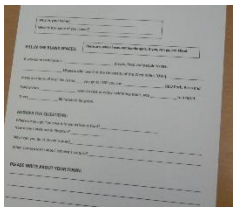
グループで聞きとってまとめた内容をＡＬＴに確認する。ここでもかなりの時間が費やされたが、結局はその場に居るグループ員しか聞くことができない。できれば、グループで話したことを教室のみんなで共有が図られると、生徒それぞれの学びにもっと広がりが出たのではないだろうか。学びの多くは、生徒と教師の間で起こるのではなく、生徒の中でほとんど発生するものである。

［本時の中心学習］：**Write about your home!**（伊江島を紹介する）

本時の中心学習である。生徒は躊躇なくきき合い支え合い解決に向かっている。自分たちで辞書を引き出し、ひとつひとつ解決に近づく。投げ出す生徒やあきらめる生徒が一人も見あたらない。ＯＥＣＤが提言した「解決に向かう意思と力」とはまさにこのような姿勢や状況を言っているのではないだろうか。

何度かビデオを見返すがテーマからそれた対話は一切聞こえない。よくグループにするとおしゃべりをするのでは？と懸念する教師がいるが、それはほぼ教師の側から下ろされた課題やテーマに探究の価値を感じない時や、テーマが簡単すぎる場合に起こる。本日のテーマは生徒が伊江島の観光大使にでもなった気分で楽しく、探究の意味や学びの価値を見出す素敵な課題設定であると言える。・・・しかし、時間が・・・

［ﾀｲﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ］



この時間にこのワークシートが妥当であったか？説明を聞いて作業に入ったのが 9:10

［学び保障の責任者］

遠くから教師と生徒のやり取りを見守る校長先生。最終的に生徒の学習権の保障は校長先生の学校経営にゆだねられる。生徒と教師との間に少し距離感を置き見守る。

助言でもなく、アドバイスでもなく、生徒の学びの姿、教室の事実から校長先生の思いを授業者に伝えてほしい。

［島立に向けて］　どこの学校、どの教室にもいます。対人関係を築くことを苦手とする生徒、家庭や生育歴、発達等様々な要因があるが、ただ一つ言えることはこの子達は自分の意思でなく、さまざまな環境の中でそう育てられてきたのだということ。この子達に悪気や罪は全くありません。あと１年半で「島立ち」の時を迎えます。その時までに私たち教師が何がして上げられるか、伊江中学校全教師の共通理解と共通実践が鍵となります。

授業では授業者やＡＬＴの何度かのケアがあり私もほっとしました。

Ｔ先生お久しぶりです。まさか伊江島で再会できるとは、機会をくださった西小校長先生と伊江中校長先生に素直に感謝します。授業と生徒の学びの力は期待以上でした。謙虚な先生の資質を生徒たちはよく理解し、先生の思いや自分の学びの探究に向かっていました。2020 年指導要領はアクティブラーニングの視点を踏まえた授業改善(改革)です。協働(協同)と対話的コミュニケーション、主体的な探求型授業づくりになります。今、先生の進もうとする方向に自信をもって挑戦していってください。素敵な授業ありがとう。

国頭学びの会ゆい